

2019 年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム／水産土木チーム

2019 年度寒地土木研究所の一般公開を 6 月 28 日（金）・29 日（土）の 2 日間にわたり開催しました。28 日（金）は雨時々曇りのあいにくの天気でしたが翌土曜日は晴れ、2 日間で 1,243 人のお客さまにご来場いただきました。今年も各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供達だけでなく大人の皆様方にも、それぞれのコーナーで実験・体験・発見を楽しんでいただけました。

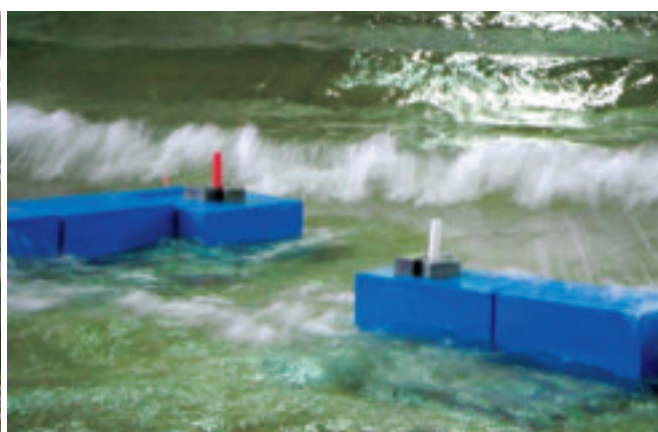
寒冷沿岸域チームでは『波と流水にふれてみよう！』をテーマに、大型平面水槽の造波装置で起こした波を模型の防波堤に当てる実験、オホーツク海で採取した本物の流氷展示、そして近年地球環境問題の大きなテーマの一つである海洋プラスチックゴミに関するシミュレーションの映像展示などを行いました。平面水槽では子供達も真剣に見学しており、この体験を通して海と波への理解を深めていただけました。流水の展示コーナーでは、直接流水に触れる貴重な体験ができたと言った方には大変好評でした。また、海洋プラスチックゴミに関するシミュレーションの映像展示には多くの方が来られ、このテーマへの関心の高まりを感じました。

水産土木チームでは『さわって・見て・学ぼう「北



の海の生きものたち！！』と題して、ウニやナマコ、ホッキガイなど、当チームが研究対象としてきた北海道沿岸域に生息する海洋生物を集めたタッチプールを設けました。普段、生きた海洋生物に直接触れることが少ない子供達にとって貴重な経験であり大人気でした。さらに、振動流実験水路による海流の再現や顕微鏡によるゴカイ・イソメ等の生物の観察、これまで行ってきた研究成果を取りまとめたビデオ放映を行いました。来場者の方々は展示物を興味深く見ていただき、理解を深めていただけました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



大型平面水槽での波の実験では子どもたちも真剣に見学（左：説明状況 右：波が模型防波堤に当たる様子）



生き物の展示物を興味深く見る来場者たち（左：タッチプール 右：顕微鏡による観察）

